



診療科目

内科  
小児科  
外科  
整形外科  
消化器科  
循環器科  
呼吸器科  
神経内科  
放射線科  
リハビリテーション科  
肛門科

専門外来

乳腺外来  
糖尿病外来  
人工透析  
医療相談  
栄養相談  
薬剤相談  
人間ドック  
健康診断

診療時間

【午前診・月～土】  
受付8:00～12:00  
診察9:00～  
【夜間診・月～金】  
受付17:00～18:30  
診察17:30～

※ただし急病患者については時間制限なく診療いたします

- 日本医療機能評価機構認定病院
  - 日本肝臓学会認定施設
  - 日本消化器病学会認定施設
  - 日本消化器内視鏡学会認定施設
  - 日本国際科学会認定教育関連病院
  - 臨床研修病院指定
  - 日本医療薬学会研修施設

The logo features the text '愛と健康の' at the top left, followed by a large stylized orange and yellow 'かけはし'. To the right is a colorful rainbow graphic. Below the main title is a blue oval containing the number 'No.31'. At the bottom left is the Kobe Asahi Hospital logo, which includes a red and black stylized 'A' icon and the text 'KOBE ASAHI HOSPITAL'. In the center is a drawing of a watermelon.

- 4月1日をもつて当院は創立20周年を無事に迎えることが出来ました。これもひとえに患者・地域の皆様の御支援の賜物であり、心から御礼申し上げます。今後も皆様の生命と健康を守るために常診療活動に全力を尽くす考えです。
- さて、今回は2006年1月のかけはし22号において述べました当院の関与する日韓医学交流のその後の展開と今後の展望について述べたいと思います。当院の関与する日韓医学交流には3つの活動があります。
- 第一は人的交流です。1990年代初めから韓国釜山にある東亜大学校医科大学からは当院及び神戸大学病院にて夏期に数名単位の医学生の研修が継続されており、又、神戸大学医学部学生の東亜大学校での研修も数年前から開始され軌道に乗っています。又、2007年7月には当院も所属する民間病院協会神戸支部の主催する“日韓看護フオーラム”が神戸で開かれ、日本の看護師300名、韓国の看護師10名が参加し、

- 第二は学術交流です。2004年にスタートした日韓肝疾患シンポジウムは日本韓の肝臓病専門家が参加し、2005年4月（済州島）（テーマ 非B非C肝疾患）2006年11月（淡路島）（テーマ 肝癌の移植）、2007年9月（ソウル）（テーマ ウィルス性肝疾患の新しい診断法）に行なわれました。2006年、2007年のシンポジウムの内容は“Oncology”や “Intervirology” といふ国際医学雑誌【編集 橋野興夫（順天堂大学）、工藤正俊（近畿大学）、李孝錫（ソウル大学）、金守良（神戸朝日病院）】にまとめられました。第5回は本年8月30日に大阪で「肝癌の現在と未来」というテーマで行なわれる予定です。もとより、こうした学術交流はそれ 자체が目的ではなく、そうした活動を通じて明らかになつた結果を日常診療の中に活かし、患者様の健康管理に役立つ意見交換が行なわれました。全国的にみても初めての試みであり、画期的意義をもつた交流でした。

習慣と成人病との関係及び両国間で疾  
病に差があるのかどうかを明らかにす  
ることを目的としています。2006  
年にスタートし、検診受診者として地  
域・在日コリアンの多くの皆様に御協  
力を頂きました。長期にわたる調査で  
すが、その成績と成果は着実に出てい  
ます。その成績の一部は今年10月に東  
京で開かれる第12回日本肝臓学会大会  
にて発表される予定です。今後も引き  
続き御協力をお願ひ致します。

●こうした活動の意義は次のように考  
えます。日韓両国の中には歴史・政治  
的に少なからぬ問題があり、ときによ  
ざなみを引き起こし、人々の心を痛め  
ます。そうした現状があるにもかかわ  
らず、又あるからこそ医学交流を通じ  
て両国の友好と理解を深める活動がい  
よいよ重要性を帯びるものと考えます。  
微力ではありますが、今後も当院は医  
学交流を通じて両国間のかけはしの役  
割を担っていく考えです。

## 日韓医学交流の展望 ～かけはしの役割をめざして～

院長  
金守良



してゐ」とが一番の目的であることは二つ目でもあつまふ。

# 特定健診・保健指導が始まりました

特定健診でメタボリックシンドロームを早期発見！

実施中！

メタボリックシンドロームは内臓脂肪型肥満が基盤となり糖や脂肪の代謝異常、高血圧などを複数合併する病態で、動脈硬化になりやすく適切にコントロールできない状態が続くと、心筋梗塞や狭心症、脳卒中など命にかかる病気の引き金になることもあります。これらの病気を引き起こすメタボリックシンドロームを早く発見するためにも、特定健診・特定保健指導を受けましょう。



健診で早く異常をみつけ、適切な指導を受け、生活習慣を改善することで、メタボリックシンドロームを予防したり改善することができると言われています。

## ー特定健診を受けるにはー

健康保険組合または神戸市国保から、受診券が送付されます。特定健診を受けていただくには、この受診券が必要です。受付窓口で、受診券と保険証をご提示下さい。

受診券には、ご本人の負担額が記載されています。

### 健診当日の流れ

- ①受付→②問診→③血圧測定→④身体測定→⑤尿検査→⑥心電図(追加の方のみ)→⑦診察→⑧採血→⑨受付(終了)

## 特定保健指導とは？

健診の結果により、保健指導のランクを下記の3つに割り当てます。当院では、保健指導は、管理栄養士、医師、研修を受けた看護師が担当します。



### ① 情報提供

健診結果の説明と健康保持に役立つ内容の情報を提供します。

### ② 動機付け支援

初回に20分以上の個別面接を行い、各個人ごとに生活習慣の見直しと行動目標を立てます。6ヵ月後に自主的に取り組んだ結果を評価します。

### ③ 積極的支援

動機付け支援に加えて、定期的・継続的に、面接やお電話、FAX、メールなどを利用し、目標達成を支援します。6ヵ月後に継続的に取り組んだ結果を評価します。

### 補足

- 現在、高血圧や糖尿病、高脂血症などで投薬を受けておられる方は、保健指導の対象にはなりません。
- また、健診結果により、治療が必要と判断された場合は、保健指導ではなく、医療機関を受診していただくようお勧めします。

### Point！

- ☆健診は受けるだけでなく、その結果をその後にどう活かすかが大切です。
- ☆健診結果の説明を受けて、医師の診断に基づいた適切な保健指導や治療を受けていただくことをお勧めします。



# あさひおりえんてーりんぐ

Spot 16

## 在宅での療養生活を支える 在宅医療室 です。

当院では病院である特色を活かし、各専門職種が連携を図り、患者様が在宅で安全・快適に過ごしながら生活の質を高められるよう「チーム医療」として在宅での療養生活を支援しています。

### 構成

医師 2名 看護師 3名  
理学療法士、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、事務 各1名

### 訪問診療

通院が困難な患者様に対し、計画的な医学管理の下、定期的に患者様宅を訪問します。患者様のご希望による往診とは異なります。

当院では安藤副院長、三田医師が伺っています。

### 訪問看護

患者さま個々のニーズに合わせた看護の提供や自立へ向けての援助等を行っています。また、介護者への指導、健康管理、精神的な支援も大切な役割の1つです。

### 訪問リハビリ

退院直後に介入し、在宅への生活にスムーズに移行できるように支援していきます。また、生活機能低下時に介入し、そのレベルの評価環境調整も含めた支援も行なっています。

### 訪問薬剤指導

服用されているお薬について、より安全に効果的に使用できるよう正しい使用方法を説明し、薬物療法をより適切に行えるよう指導しています。



### 訪問栄養指導

管理栄養士が食生活や栄養に関する様々な相談にのります。各家庭にある食材、器具を用いてご家族やヘルパーの方々に直接実技指導も行なっています。

各部門担当者が訪問計画の立案・実施・評価を繰り返しながら患者様に接しています。今後も各専門職が知識・技術の向上を図り幅広い情報を収集しながら積極的にカンファレンス等で情報交換を行ないつつ、より質の高いサービス提供に努めてまいります。



在宅での上記訪問サービスを受けるには医師の指示が必要となります。  
詳しくは在宅医療室にお問い合わせ下さい。



これでぐるーっと一周が終わりました。ありがとうございました。

## 冷たいスープで、夏バテ予防!

### ガスパチョ

栄養科 威徳 由香

ガスパチョは、生野菜スープのことです。アンダルシア地方で主に食されるものです。火を使わないので、壊れやすいビタミン類・ミネラルなどがそのまま生きており、夏の栄養摂取のバランス維持に効果があると言われています。トマトは、ビタミンC・カロテン・抗酸化作用の強いリコピンなどが豊富です。きゅうりは、96%が水分で、渴きを癒し利尿効果があります。ピーマンは、ビタミンC・カロテンを含んでいます。

水分たっぷりの夏野菜は、体温を下げ、水分を補給して夏バテ防止になります。手間もかかるないので、夏のメニューに加えてみて下さい。



●1人分：エネルギー 78kcal  
蛋白：2.4g 塩分：1.8g

### 材料 (1人分)

トマトジュース	150g
塩	0.8g
こしょう	少々
玉ねぎ	10g
きゅうり	10g
ピーマン	10g
パセリ	少々
パン	10g
レモン汁	2g
オリーブ油	2g

### 作り方

- ①トマトジュースを塩・こしょうで調味する。
- ②玉ねぎ、きゅうり、ピーマン、パンをみじん切りにする。
- ③①に②とパセリ、レモン汁、オリーブ油を混ぜて冷やす。

## 食中毒を防ぎましょう!

6月～9月の夏場は、食中毒が多い季節です。食中毒の原因の多くは、カンピロバクターやサルモネラといった細菌によるもので、これらは暑い季節に一番増えやすくなっています。そのため、これから暑い季節は食中毒を防ぐために特に注意しましょう。

### ① 菌をつけない。

- ・手や洗える食べ物は、しっかり洗いましょう。手を洗うことは、食中毒予防の第一歩です。
- ・肉や魚などの生鮮食品は、他の食べ物とつかないようにしっかりと分別しましょう。

### ② 菌を増やさない。

- ・生ものや料理は、早く食べましょう。
- ・保存するときは、10℃以下の冷蔵庫 -15℃以下の冷凍庫で保存しましょう。冷蔵庫は、定期的にアルコールで除菌しましょう。

### ③ 加熱して、殺菌しましょう。

- ・料理するときは、しっかり加熱しましょう。
- ・食器や調理器具も、熱湯などで消毒しましょう。